



1. ねらい

小学校2年生～6年生の国語の教科書（上）巻末には、「言葉のたから箱」のページがあり、その学年で使えるようになることが望ましい「人物、ものや事柄、気持ちを表す言葉」が収められています。これは、豊かな語彙や言語の知識・技能を、全ての学力を支える基盤として重視し、実生活の場で生きて働く言葉の運用力を身につけられるようにするためにあります。

この教材では、「気持ちを表す言葉」を低学年用と高学年用に分けて、一つの絵ごとに5種類提示し、選択肢の中から選んで説明することができるようにしました。子どもたちは、この教材を見ながら、たくさんの気持ちを表すことばがあることに気づくことができると思います。

子どもたちが、自分の今の気持ちを表現できるようになることをめざして、ご活用ください。

2. 作り方

(1) ファイルのポケットに表紙、使い方説明、二（または四）年の気持ちを表す言葉一覧表の順にはさみます。

(2) ①女の子が話しかけられている絵、1頁空けて悩んでいる絵、1頁空けて慰められている絵、1頁空けて寝ている絵の4枚の絵をポケットに入れます。

②低・高どちらを使うか決めて、5択プリント、例文プリントともに、使う方を上に、使わない方は下に重ねます。

③先ほどの絵の隣に当てはまる5択の言葉を入れ、その裏に5択の例文を入れます。

3. 使い方

(1) 低学年用・高学年用のどちらを使うか決めます。

(2) 一覧を見ます

低学年（2年生）用と中学年（4年生）用の気持ちを表すことば一覧のどちらかを見せて、どんな言葉があるか、自分はどのくらい知っているか、使っているか考えさせましょう。

(3) 絵を見て、様子を説明します

最初は、教師が絵を見て説明しましょう。慣れてきたら、子どもたちに説明してもらいましょう。

(4) ぴったりの「気持ちを表す」ことばを考えます

5つの選択肢の中から、どのことばがピッタリか、子どもたち一人一人に考えてもらいましょう。

「どうしてそう思うか」考えて、説明できるよう準備を促しましょう。

(5) 気持ちを表すことばを一つ選んで説明します

「お友だちにほめてもらって、うれしい気持ちだと思います」等、一つ目は教師が説明の仕方を例示して、発表を促しましょう。

(6) 他の人の意見を聞いて、答えは一つではないことに気づかせます

他の人の意見も聞いて、「そうだな」と思ったら、自分でもその気持ちを表すことばを使って、説明をしてみるよう二人組や班内で時間をとって、説明し合うようにしましょう。